

アイヌ生活文化再現マニュアル

縫う

— チェブケリ・ユクケリ・トツカリケリ —

財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構

発刊にあたって

財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構は、平成9年7月の創設以来、アイヌ文化の振興、アイヌの伝統やアイヌ文化に関する知識の普及と啓発、アイヌ文化等に関する研究の推進や助成などの各種事業を実施しております。

そうした事業の一環である「アイヌ生活文化再現マニュアル作成事業」は、アイヌの伝統文化を、映像や音声、文字などによって記録し、アイヌの人々をはじめとして、広く一般の人々や研究者の利用に供することにより、アイヌ文化の伝承・保存を図ることを目的としています。

本マニュアルがより多くの人々の利用に供され、アイヌ文化の振興が推進されるとともに、我が国の多様な文化の一層の発展が図られれば幸いです。

目 次

はじめに

チェブケリ	9
鮭の皮はぎ	10
ひれの名称	10
材料	13
チェブケリの仕上がり	14
型をとる	15
仮縫い	16
甲をつくる	18
かかをつくる	21
足首をつくる	22
紐をつくる	25
ケロムンをつくる	27
作者紹介	29
ユッケリ	31
ユッケリの仕上がり	32
材料	33
仮縫い	36
甲をつくる	38
つま先をつくる	40
滑り止めをつくる	41
作者紹介	43

トッカリケリ	45
トッカリケリの仕上がり	46
材料	47
型をとる	48
飾りをつける	49
靴底をつくる	50
側面を縫う	52
靴底と麂の皮を縫い合わせる	53
合わせ部分をつくる	56
紐をつける	57
おわりに	59
参考文献	61

はじめに

アイヌの人々は、普段は裸足で生活していたといわれています。しかし、地形の悪いところや山野へ猟に行く時などには靴を履いていました。

靴はアイヌ語でケリといいます。鮭の皮や動物の毛皮、ブドウヅル、樹皮などさまざまな材料でつくられていました。

雪の上を歩く時には、テシマやチンルというかんじきをつけることもありました。

靴の中には、保温や除湿などのためにケロムンという草を入れて履いていたといわれています。



熊猟図 市立函館博物館蔵

このマニュアルではチェブケリ(鮭皮鞋)、ユッケリ(鹿皮鞋)、トッカリケリ(アザラシ皮鞋)のつくり方を再現します。



履物に関するアイヌ語

ケリ	靴	ストウケリ	ブドウヅルで作られた靴
チェブケリ	鮭の皮で作られた靴	テシマ	軟雪用かんじき
ユッケリ	鹿の皮で作られた靴	チンル	堅雪用かんじき
トッカリケリ	アザラシの皮で作られた靴	ケロムン	靴の中に敷く草

チェプケリ（鮭皮靴）

チェプケリとは、鮭の皮でつくった靴のことです。

鮭は、アイヌ語でチェプカムイ（神の魚）と呼ばれ、アイヌの人々にとって大切な食料でした。漁を始める前にはカムイ（神）に祈りを捧げ、必要以上の数をとることはありませんでした。また、内臓、骨なども捨てることなく利用し、皮靴や衣服などの生活用具がつくられました。

チェプケリをつくるには、オイシル（ほっちゃれ）と呼ばれる産卵後の鮭が大きく、皮も厚く最適であり、一冬越せる丈夫な靴ができたといわれます。

大人1足分のチェプケリをつくるためには、鮭3～4本分の皮が必要だといわれています。

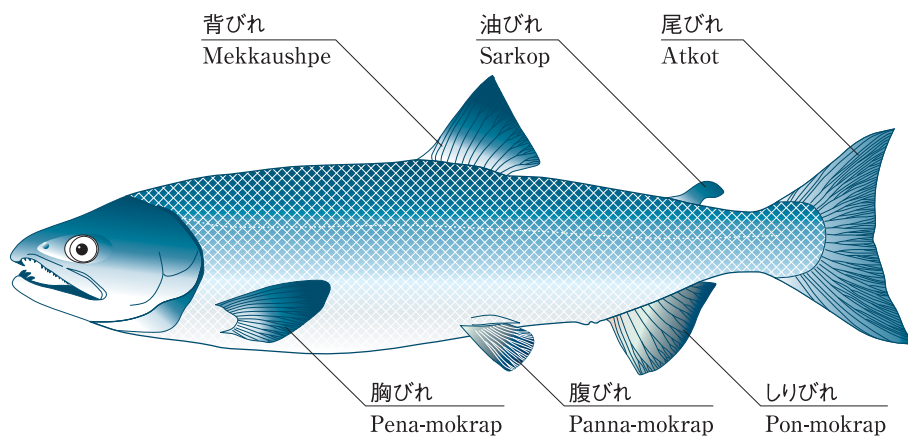


チェプケリに関するアイヌ語

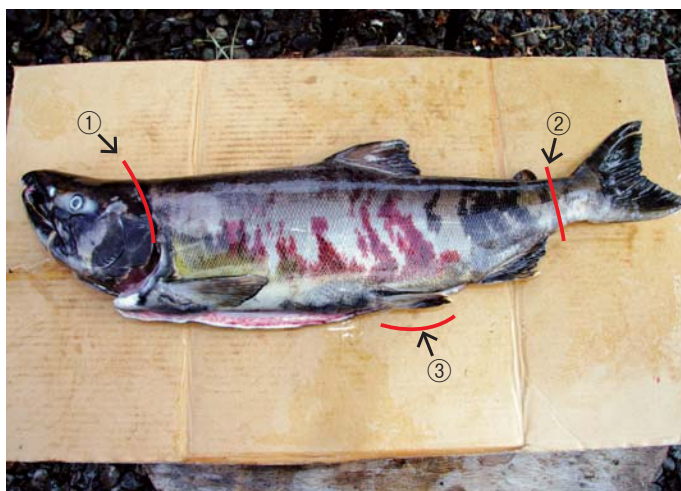
チェプ	鮭
カムイ	神
オイシル	産卵後の鮭

鮭の皮はぎ

ひれの名称



①鮭の頭 ②腹びれ ③尾びれに浅く切れ目を入れます。



尾の方を押さえ、尾びれの切り目から手を入れ
頭の方に向かって、皮をはいでいきます。



刃物は皮に傷がつくのでつかいません。



皮に残った身を取り除きます。



地域によっては鮭を干してから、たたいて身を取り、皮をはぐ方法もあります。



身をとった鮭の皮は、洗ってから板に広げます。皮の端が丸まらないよう、釘で止めて干します。2週間ほどで乾燥します。



材料

1足分の材料：3枚～4枚の鮭の皮

縫い糸：イラクサでつくった糸（撚りを強くした細い糸）

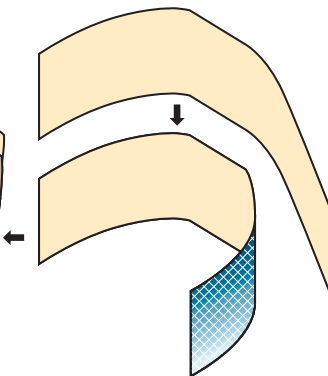
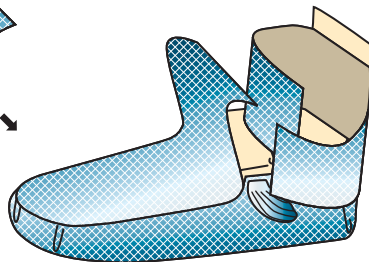
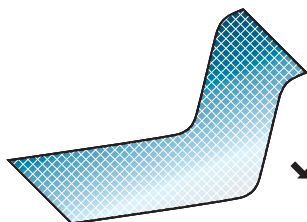
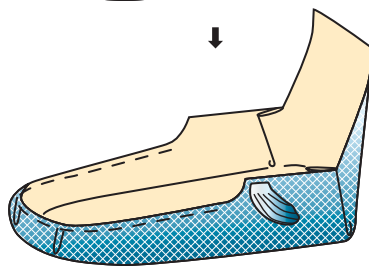
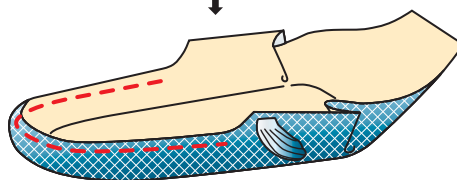
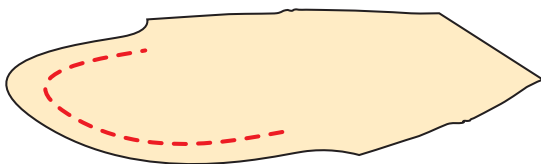
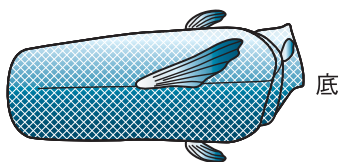
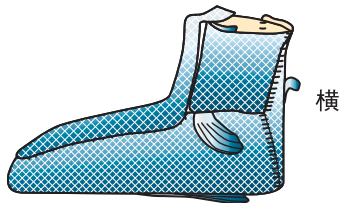
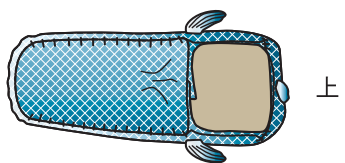


皮は水かぬるま湯につけて、柔らかくします。
皮が硬いと針の通りが悪く、柔らかすぎると破れやすくなります。

作業中、皮が硬くなった時には、霧吹きをつかって柔らかくします。



チェブケリの仕上がり

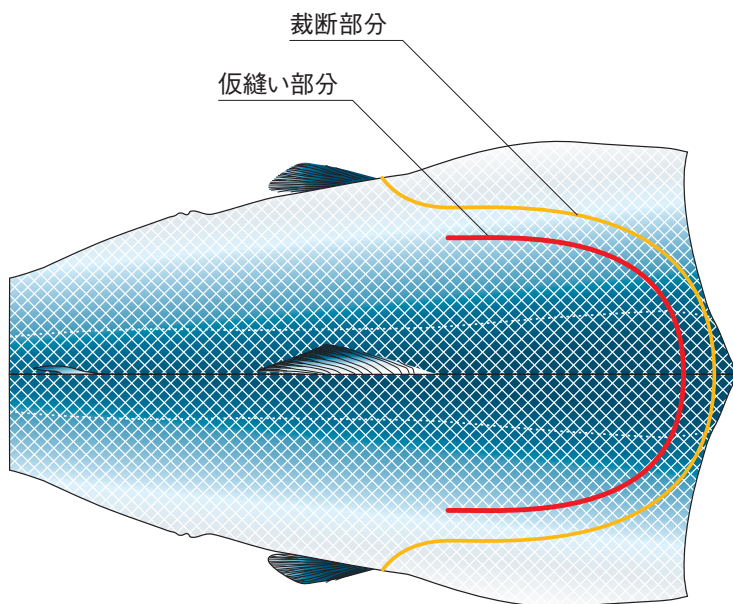


型をとる

土ふまずに背びれ、くるぶしに腹ビレがくるよう足を置き、底からの立ち上がり分として、3.5cmの幅で印をつけます。



鮭皮全体図



仮縫い

左右とも、ひとさし指1本分あけたところから縫い始めます。今回、仮縫い糸はテグスをつかいました。



つま先の形をつくりやすくするために印の上にして仮縫いし、糸を引ながら大まかな形をつくれます。



つま先の丸みや、靴底の高さを確認し、仮縫いの糸をつけたまま、印から2cm外側を切ります。



つま先部分に詰め物をして形を保ちます。



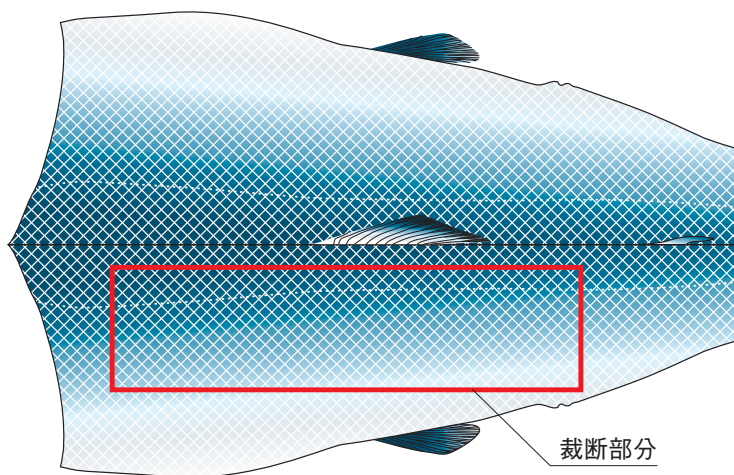
つま先に足を合わせて仮縫いの糸を引き、形を整えます。



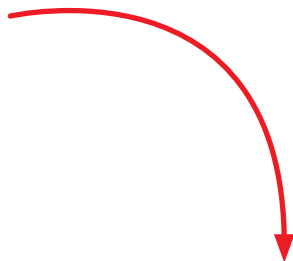
甲をつくる

甲にする皮は、つま先から足首までの長さが必要です。鮭の半身から、片足分を裁断します。

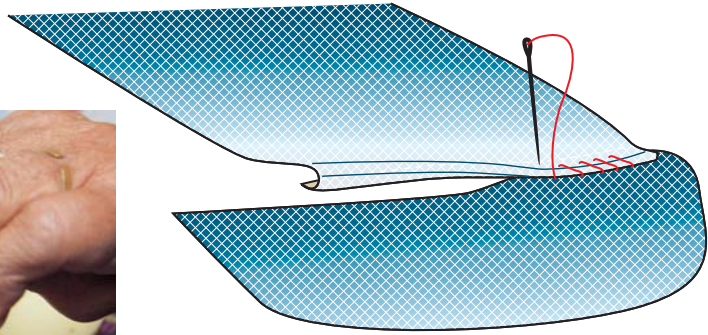
裁断



つま先と甲の中心部分を合わせて形を整えながら、皮の両端を2 cm ずつ残し、仮縫い糸が表に出ないように内側を縫います。



内側に折りながら縫う



皮を 1 cm ほど内側に折って、仮縫い糸に合わせるよう、形を整えながら縫っていきます。縫い目を外に出して、腹びれのところまで縫います。

※ 針が通りにくい時には、目打ちなどで穴をあけます。



片側を縫い終わった状態



外側から見た縫い目



内側から見た縫い目

かかをつくる

靴底の寸法に合わせ、尾の部分の皮を靴底に垂直に立てると、腹びれ周辺の皮が横に広がります。この皮を、内側に折りたたんで、かかをつくります。



内側に折りたたんだ皮は、補強のため切らずにおきます。

折り目にそって表側から縫います。

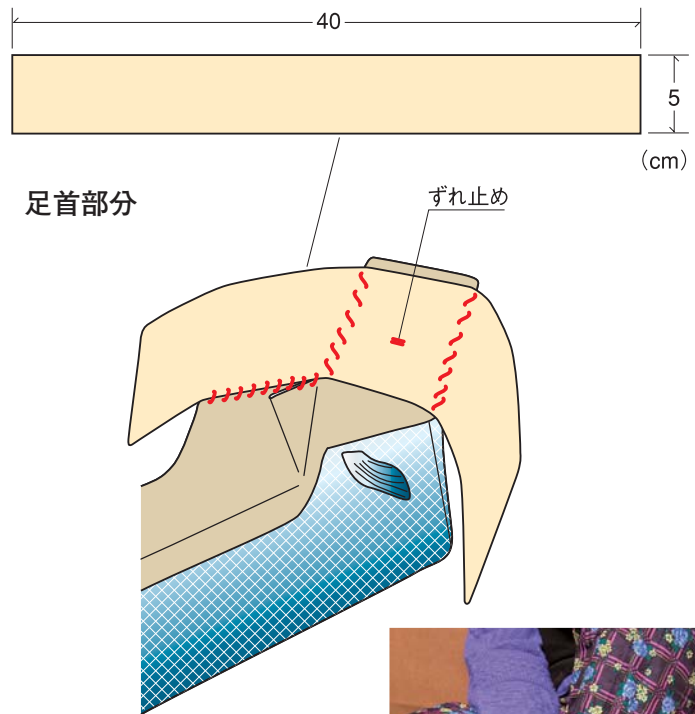
裏から糸を出し靴底から腹びれに向かって縫います。



遠山さんは、縫い目を左右12ずつにそろえました。



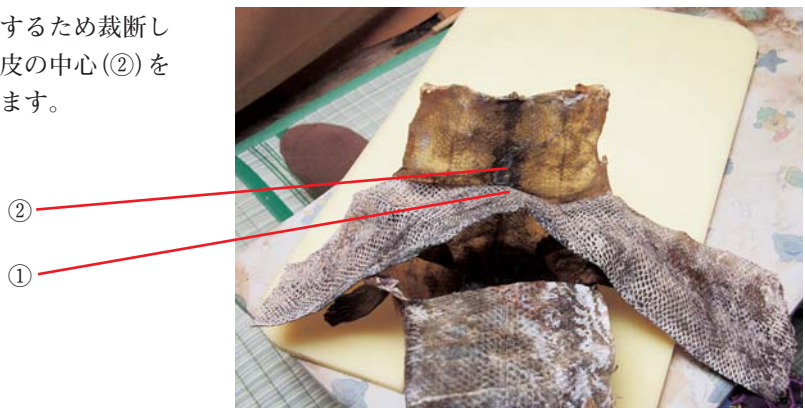
足首をつくる



足に合わせて、おおよその長さを決めます。
幅5cm、長さ40cmで裁断します。



足首部分を縫いやすくするため裁断した皮の中心(①)と後ろの皮の中心(②)を合わせ、一目縫って止めます。





縫い始めは、内側から針を出し、靴底に向かって縫います。
皮の端は硬いので、折り目をつけながら皮を柔らかくします。

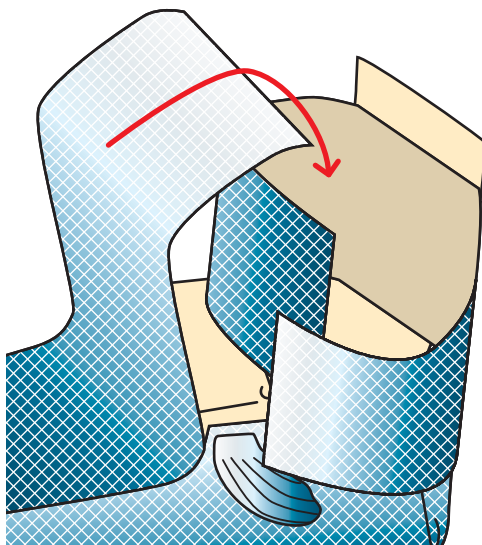


靴底に合わせる部分は、中心から腹びれに向かって縫います。
表に縫い目が出ないように内側から縫います。



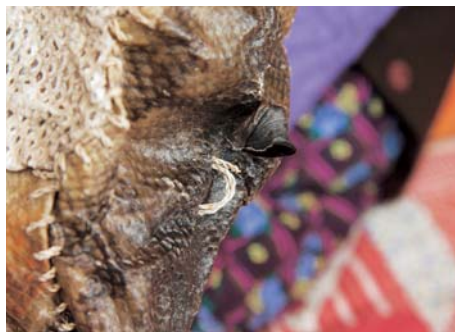
チェプケリの足首部分

甲の皮の角を切り落とし、内側に折って、左右の皮を合わせたところを押さえます。



角をおとす

紐通しを後ろにつくります。



紐をつくる

材料：幅広に裂いたオヒョウの木の皮



紐をつくる時、遠山さんは、つかう用途に合わせて材料を選び、太さや撚り方を変えています。靴に巻く場合は、太めの紐の方が扱いやすく、皮をしっかり押さえることができますといいます。



150cm×太さ 7mm

山歩きの時、遠山さんは長靴に縄をまいて滑り止めにした経験があることから、靴底にも紐を巻くことにしました。



足首の皮を押さえるようにして前で結びます。



ケロムンをつくる

ケロムンは、保温と汗とりのために靴の中に入れる草のことです。昔は、道端で枯れ草をとり、まるめて靴の中に入れていたといいます。また、オヒョウやアカダモの木の皮を細く裂いたものもつかわれていました。

遠山さんは、扱いやすくするために根元をまとめることにしました。



ケロムン：靴の中に入れる枯れ草

材料：ヤチボウズ（湿地でみられるスゲ類）

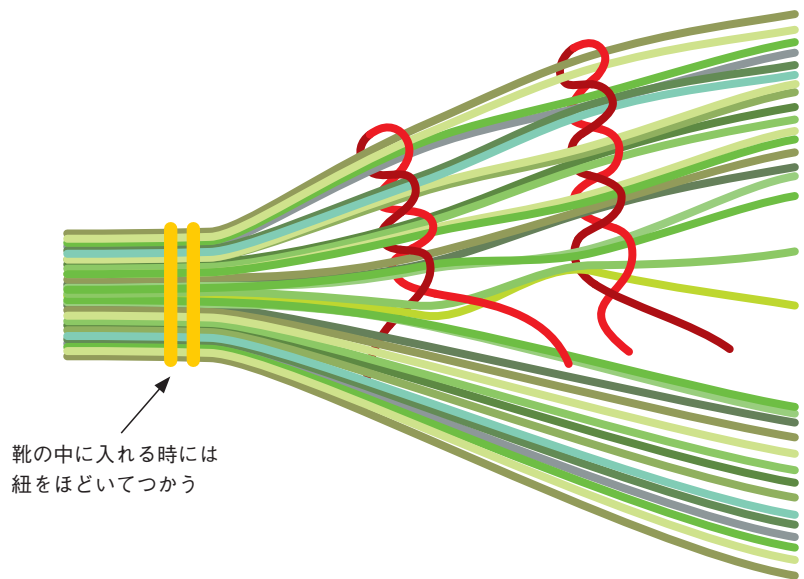
夏のうちに刈り取り、乾燥させた柔らかい先の部分だけをつかいます。



1センチほどにまとめた草に、紐を巻いていきます。2段目は草が分かれてしまわないよう、1段目の草を半分に分けて紐を巻きます。



ケロムン



ケロムンを入れて、上から見た状態





作者紹介

遠山 サキ

1928年生まれ。北海道浦河町姉茶在住。

伝承活動の一環として、鮭の皮はぎ作業を毎年家族ぐるみで行っている。

チェブケリを履いた経験はないが、民芸品として

製作していた夫のつくり方をもとに、再現しました。

ケロムンの草のまとめ方は、独自の考えによるものです。

ユッケリ (鹿皮靴)

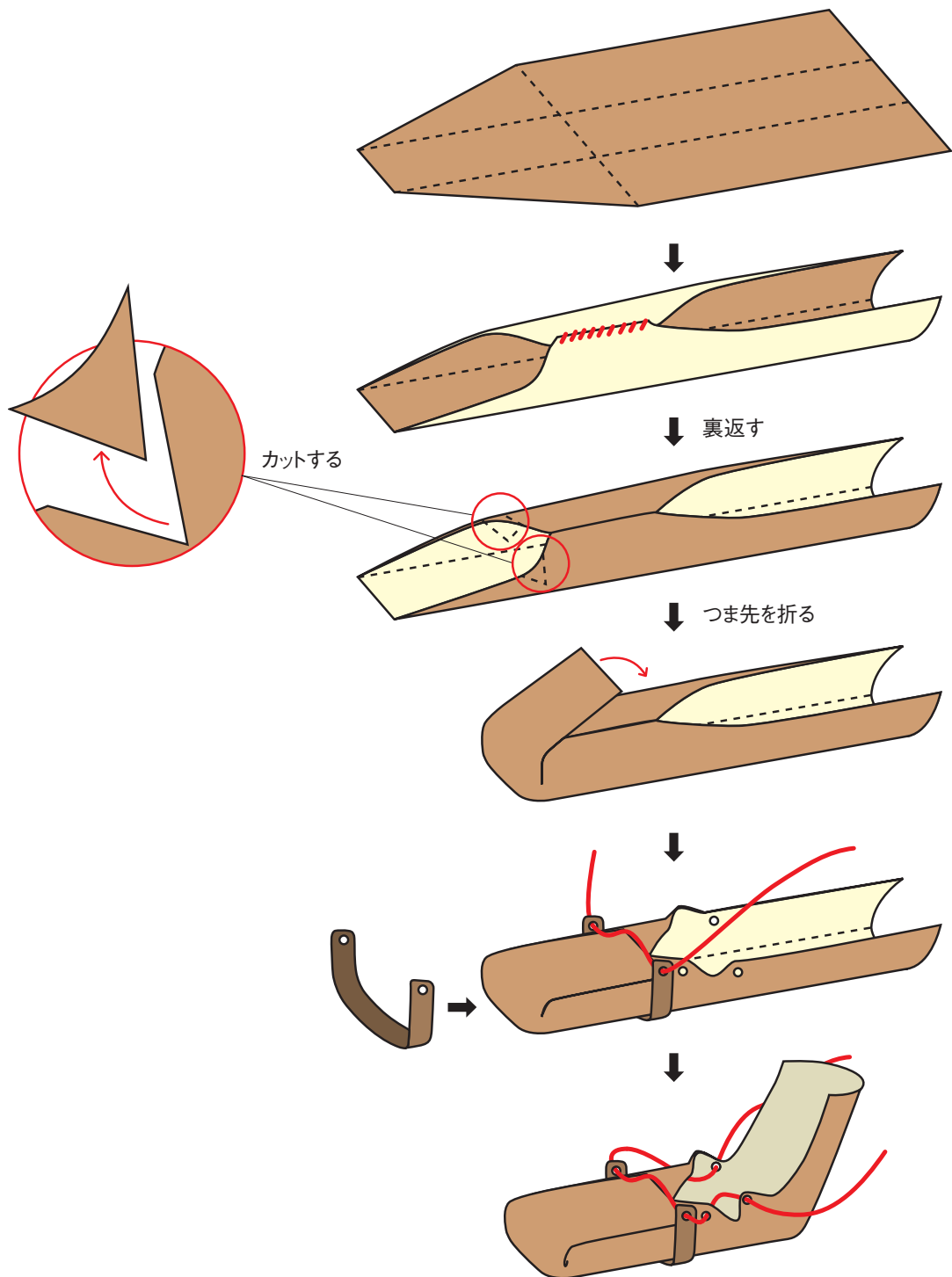
ユッケリとは鹿の皮で作られた靴のことです。

アイヌの人々にとって鹿は鮭と同様に大切な食料でした。特に秋から冬にかけては、保存用の食料として大切にされました。また、冬毛に生え変わるのに、良質な毛皮を手に入れることもできました。

鹿の毛皮は保温性や強度があるため、靴や衣服などにつかわれました。角や骨などとともに生活用具づくりにはかせないものでした。



ユッケリの仕上がり



材料

1足分の材料

裁断した鹿の皮 2枚
縫い糸 (ナイロン製)
皮専用針
シナの木の皮で作った紐
脛毛 3cm×長さ28cm



ユッケリには毛が短く、皮が厚い脛毛が最適だとされています。靴底には前足の脛毛を使うため、上質なユッケリを1足つくるためには、鹿2頭分の毛皮が必要だといわれています。

近年では、脛毛の部分だけで靴をつくれるような大きな鹿は少なくなっているといわれています。

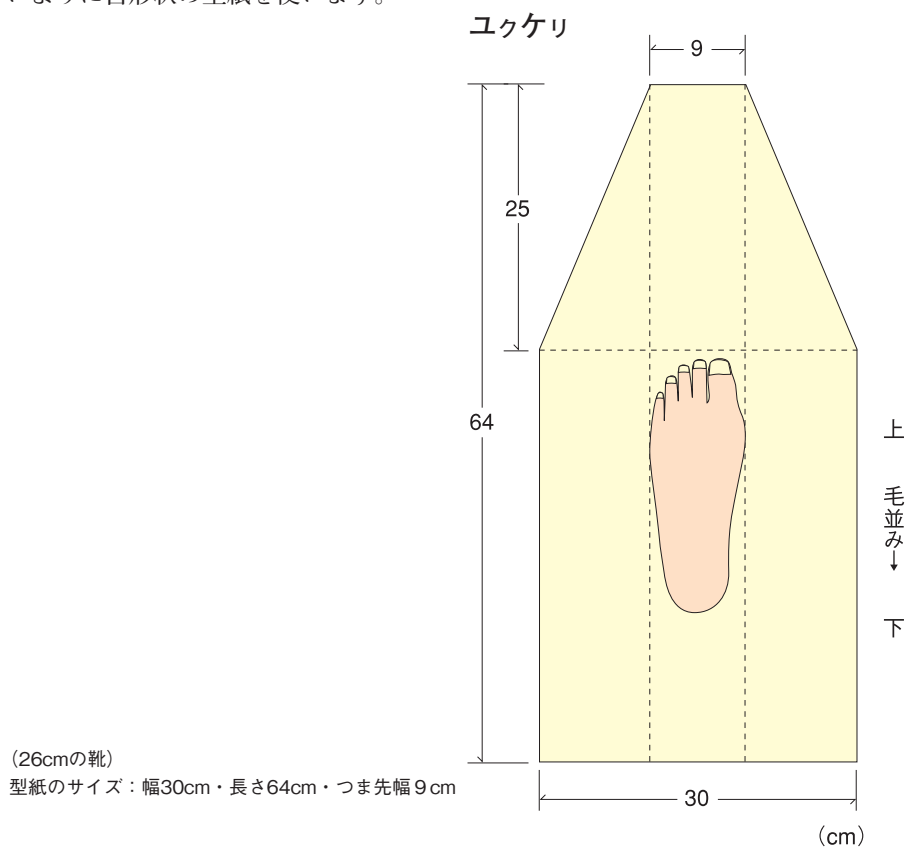


脛毛

今回、脛毛の大きさが足りないため、足の付け根の皮をつかいます。



裁断しやすいように台形状の型紙を使います。



型紙は、つま先が皮の頭になるように置いて裁断します。



仮縫い

毛先が後ろを向くように皮の上に足をのせます。こうすることで、雪の斜面を登る時に毛が刺さって滑り止めになり、下る時はよく滑るといいます。



余裕をもって左右の皮を合わせ、甲になる部分を2箇所仮止めします。





仮止めしたところに合わせて線をひき、不要な部分を切り落とします。



甲をつくる

仮止めした部分（20cm）を細かく縫います。



縫い糸は現在、ナイロン製のものをつかっていますが昔は、アイヌ語でスンチと呼ばれる鹿の腱やツルウメモドキで作った糸をつかっていたといわれています。



皮を裏返します。



縫い始めの部分からつま先が出ないように足を置き皮を手前に折ります。



折り返しの角の処理をしやすいように重なり的一部分を切り落とします。こうすることで合わせ部分が薄くなり針が通りやすくなります。



つま先をつくる

合わせ部分に隙間ができないように角を押さえながら両側を縫います。

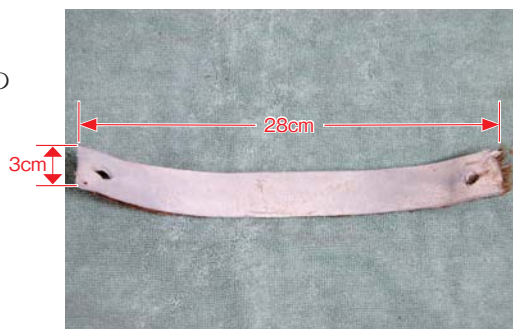


つま先の幅16cm 折り返しの長さ19cm 靴底部分の完成です。



滑り止めをつくる

足首にぴったりと毛皮を合わせ、紐を通すための穴をあけます。



幅3cm×長さ28cmに切った脛毛の端に穴をあけ、紐を通します。



紐を通した脛毛を土踏まずより、やや後ろ側になるように巻きます。





足首の左右に広がる皮は、縫わずにたたんで脛毛に通した紐で押さえます。



紐を交差させ、足首にあけた穴に紐を通し、巻きつけて前で縛ります。



足の付け根部分の皮をつかったユッケリの完成です。



作者紹介

川上 哲

1949年生まれ。北海道旭川市在住。

木彫製作を父・實さんに師事して学ぶ。

ユッケリは、道内各地で集めた資料をもとに、

自ら猟で射止めた鹿皮を使用して再現しました。

トッカリケリは、応用編として製作したものです。

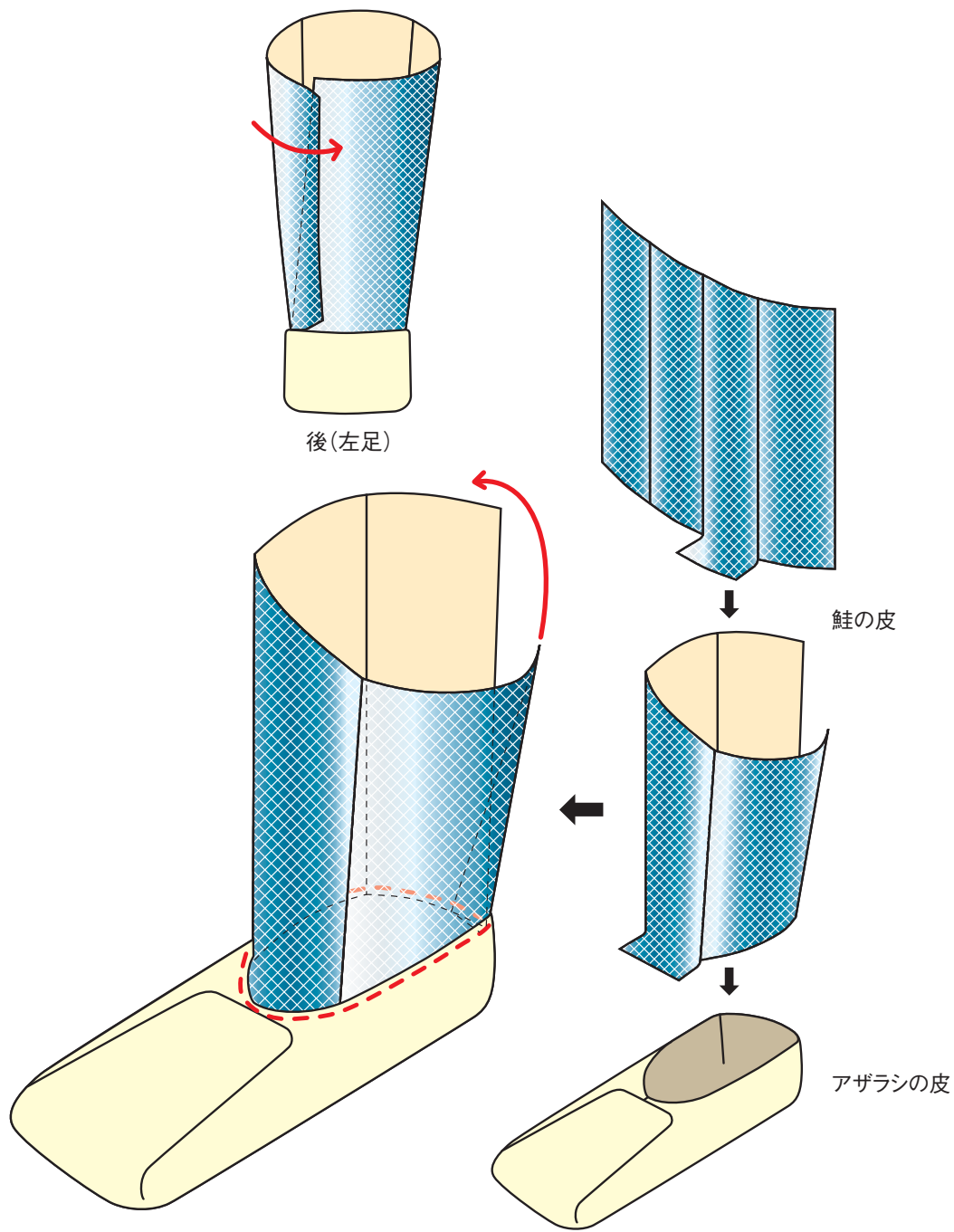
トツカリケリ（アザラシ皮靴）

ユクケリとチェブケリのつくり方を応用してアザラシの皮を靴底に、鮭の皮を上の部分につかい、靴をつくります。



靴底27cm 高さ27cm

トッカリケリの仕上げ



材料

1足分の材料

アザラシの皮
鮭の皮 3～4枚
縫い糸 ナイロン製
皮専用針



アザラシの皮



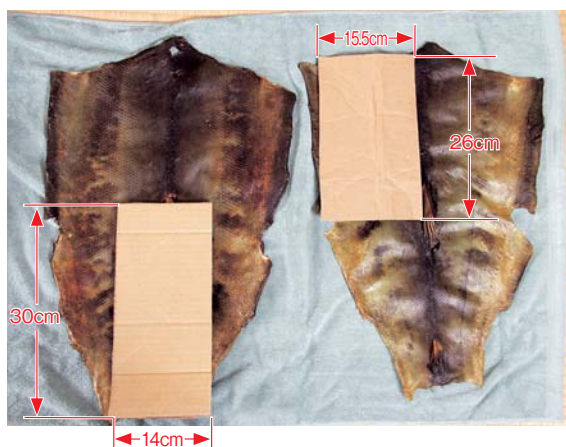
鮭の皮

アザラシの皮は、つま先からかかるとに向けて毛が流れるように裁断します。



型をとる

鮭の皮を裁断します。裁断しやすいように、型紙をつかいます。



型紙のサイズ

靴の中央になる部分 1枚 幅14cm×長さ30cm

側面になる部分 3～4枚 幅15.5cm×長さ26cm

背びれのついている鮭の皮は甲の部分につかいます。



飾りをつける

背びれのついている鮭の皮を加工します。
鮭の皮は水か、ぬるま湯で柔らかくしてつかいます。
背びれを取り除き、くりぬいた部分を利用して文様をつくります。



くり抜いた皮より少し大きめの皮をあて、周りを縫って文様にします。



靴底をつくる

アザラシの皮を使って靴底をつくります。

仮縫いをして甲をつくります。

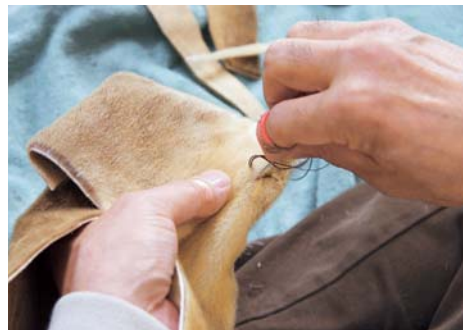
※ 詳しくは、ユクケリ (36~39ページ) を参考にしてください。

つま先をつくります。

つま先の折り返しは、重なり部分を確認し不要な部分を切ります。

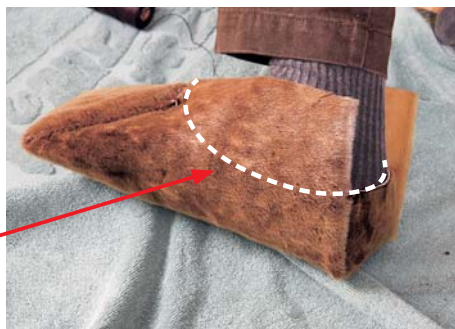


つま先の両側は端を折らずに縫い、つま先の上の部分は、皮を内側に折って縫います。

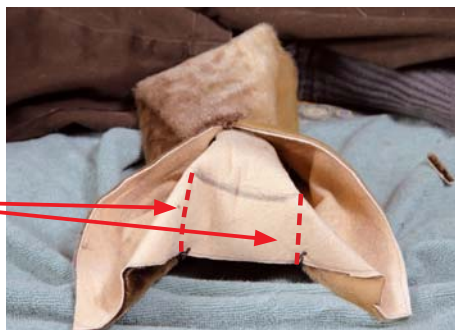


中にケロムンなどを入れるので、つま先にゆとりを持たせた状態でかかとの部分を仮止めし、内側から縫います。

かかをつくった後
上の部分をカットする



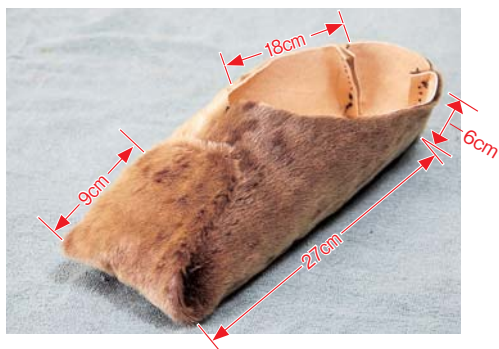
縫う



かかとの縫い目から5mmのところを切ります。



靴底ができました。
靴底27cm 高さ6cm
甲の部分9cm・空きの部分18cm



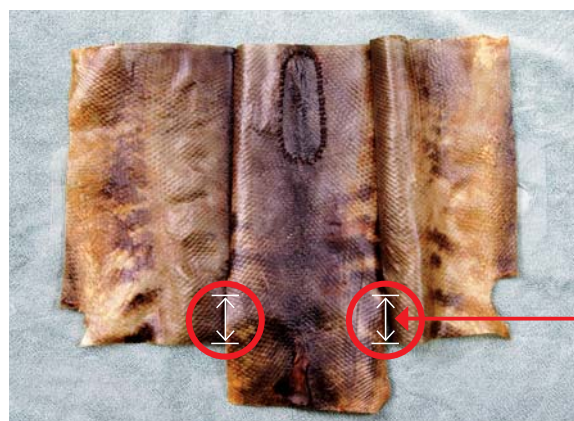
側面を縫う

裁断した鮭の皮を縫い合わせます。

文様をつけた長い皮を中央になるようにし、両側の皮を表面で合わせ、下から5cmほど上を仮止めします。



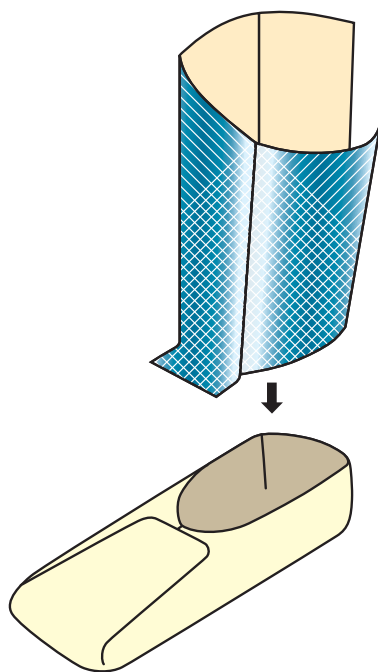
仮止め部分から5mmほどの間隔で細かく縫います。残した5cmの部分は、靴底に縫い合わせる時に使用します。



5cm

靴底と鮭の皮を縫い合わせる

靴底と、鮭皮の縫い合わせ部分に印をつけ、印から2cm外側を切ります。



靴底と鮭の皮をそれぞれ裏にし、真ん中を合わせます。

アザラシの皮のよじれを防ぐために中心から左右に、それぞれ縫っていきます。

この時、アザラシの皮をひっぱりすぎないように注意します。



3枚の皮を縫い終わったら、後ろになる4枚目の皮を準備します。



寸法は、靴底の後ろの幅に合わせます。



靴底と縫い合わせる部分は、2 cmあけて下から縫います。



靴底部分を縫います。角を合わせ、隙間ができないように縫います。
麁の皮を靴底についたら、表にします。



合わせ部分をつくる

4枚目の皮が内側になるよう合わせ下の部分だけを縫って止めます。



アザラシの毛皮で、縁取りします。



こうする事で、合わせ部分が扱いやすく丈夫になります。



紐をつける

紐の長さ 150cm

縁取りした皮の横に穴をあけ、紐を通します。



4枚目の皮が内側になるよう合わせ、紐で縛ります。



靴底にアザラシの皮、上の部分に鮭の皮をつかった靴の完成です。



おわりに

チェブケリとユッケリは保温性、機能性にすぐれた冬の履物です。昔、鮭皮と鹿皮は、アイヌの人々が簡単に手に入れることができる材料でした。この二つの材料を見る時、鮭がたくさんいる川、鹿が群れをなしている山を誰もが想像することでしょう。今回、鮭皮は浦河町に住む遠山さんが、鹿皮は旭川市に住む川上さんが準備しました。入手困難な材料については、現在市販されているものを使用しました。

冬靴としての安全性は、それぞれの靴に作者独自の工夫がみられます。チェブケリの靴底には、背びれを残して滑り止めとしましたが、遠山さんは自らの経験を生かし、更に太めの紐を巻いて仕上げました。川上さんは資料をもとに、毛皮の向きをつま先からかかとへ流れるようにつかったユッケリを製作しました。靴底部分に巻いた脛毛は、滑り止めと足首をまとめる紐とのつなぎの役目を果たしています。トッカリケリは、雪の多い上川地方に住む川上さんの発想から、生まれたものです。

アイヌの人々の靴は日常的につかわれていたためか、ほとんど残されていません。しかし地域や作り手、あるいは材料によって、さまざまな大きさや形の靴がつくられた事を再現によって知ることができました。保温や滑り止めの工夫は、今でも冬の暮らしに根付いています。



参 考 文 献

チェブケリ・ユクケリ・トッカリケリの製作にあたって、参考となる文献を紹介します。

- 旭川竜谷高等学校郷土部
1974：「近文で聞いた「チェブケリ」の手法」『北海道史研究』5 北海道史研究会
1990：「はきものと交通」『上川アイヌの研究』5 旭川竜谷高等学校郷土部
- 萱野 茂
1978：『アイヌの民具』すずさわ書店
- 更科源蔵
1968：『歴史と民俗 アイヌ』社会思想社
1982：『アイヌの民俗①』更科源蔵アイヌ関係著作集Ⅳ みやま書房
- 関 秀志他
1997：『北海道の自然と暮らし』北の生活文庫2 北海道
- 財団法人日本私学教育研究所編
1990：『上川アイヌの研究』調査資料152 財団法人日本私学教育研究所
(1990：「はきものと交通」所収)
- 福岡 イト子
1985：「アイヌのはきものーケリー」『北海道の研究』7 民俗・民族篇 清文堂出版
- 村木美幸
1994：「織田ステノ伝承「チェブケレ＝サケ皮製のはきもの」の製作」『アイヌ民族博物館
研究報告』4 財団法人アイヌ民族博物館

映 像

- 財団法人アイヌ無形文化伝承保存会
1998：「第1巻～トゥレブ・マキリ・ケリ」アイヌ文化を伝承する人々 アイヌ文化伝承記
録映画ビデオ大全集 財団法人アイヌ無形文化伝承保存会
2001：「アイヌの衣服とくらし～室内着・防寒着」アイヌの生活文化 アイヌ文化伝承記録
映画ビデオ大全集 財団法人アイヌ無形文化伝承保存会

チェブケリ・ユクケリ・トッカリケリ を展示・収蔵している施設

チェブケリ・ユクケリ・トッカリケリ を展示、あるいは収蔵している施設をいくつか紹介します。

◎北海道内

- 旭川市博物館
- 旭川市神楽3条7丁目
- 川村カ子トアイヌ記念館
- 旭川市北門町11丁目
- 浦河町立郷土博物館
- 浦河郡浦河町西幌別273-1
- 阿寒アイヌコタン
- 釧路市阿寒町阿寒湖温泉4丁目7-19
- 釧路市立博物館
- 釧路市春湖台1-7
- 平取町二風谷アイヌ文化博物館
- 沙流郡平取町二風谷55
- 萱野茂二風谷アイヌ資料館
- 沙流郡平取町二風谷79-4
- 北海道開拓記念館
- 札幌市厚別区厚別町小野幌53-2
- 財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構
- 札幌市中央区北1条西7丁目
- 北海道立アイヌ総合センター
- 札幌市中央区北2条西7丁目
- 北海道大学植物園・博物館
- 札幌市中央区北3条西8丁目
- 札幌市アイヌ文化交流センター
「サッポロピリカコタン」
- 札幌市南区小金湯7
- 室蘭市民俗資料館
- 室蘭市陣屋町2-4-25
- 弟子屈町屈斜路コタンアイヌ民俗資料館
- 川上郡弟子屈町字屈斜路市街1条通11
- 帯広百年記念館
- 帯広市緑ヶ丘2 緑ヶ丘公園内
- 幕別町蝦夷文化考古館
- 中川郡幕別町千住114-1
- のぼりべつタマ牧場 ユーカラの里
- 登別市登別温泉町224
- 苫小牧市博物館
- 苫小牧市末広町3-9-7
- 新ひだか町アイヌ民俗資料館
- 日高郡新ひだか町静内真歌7-1
- 財団法人アイヌ民族博物館
- 白老郡白老町若草町2-3-4
- 函館市北方民族資料館
- 函館市末広町21-7
- 標津町歴史民俗資料館
- 標津郡標津町字伊茶仁2784
- 名寄市北国博物館
- 名寄市字緑丘222
- 美幌博物館
- 網走郡美幌町みどり253-4
- 網走市立郷土博物館
- 網走市桂町1丁目1-3
- 北海道立北方民族博物館
- 網走市字潮見309-1
- 昭和南山アイヌ記念館
- 有珠郡壮瞥町昭和南山

◎北海道外

- アイヌ文化交流センター
- 東京都中央区八重洲2丁目4-13
- 東京国立博物館
- 東京都台東区上野公園13-9
- 国立歴史民俗博物館
- 千葉県佐倉市城内町117
- 東北福祉大学芹沢銈介美術工芸館
- 仙台市青葉区国見1-8-1
- 野外民族博物館リトルワールド
- 愛知県犬山市今井成沢90-48
- 松浦武四郎記念館
- 三重県松坂市小野江町383
- 大阪人権博物館
- 大阪府大阪市浪速区浪速西3-6-36
- 大阪府立近つ飛鳥博物館
- 大阪府南河内郡河南町大字東山299
- 国立民族学博物館
- 大阪府吹田市千里万博公園10-1
- 天理大学附属天理参考館
- 奈良県天理市守日堂町250

アイヌ生活文化再現マニュアル
縫 う
— チェブケリ・ユクケリ・トッカリケリ —

2008年3月 発行

発行 財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構

〒060-0001

北海道札幌市中央区北1条西7丁目

プレスト1・7 (7階)

TEL (011) 271-4171 / FAX (011) 271-4181

本書の内容の一部または全部を無断で複写複製（コピー）することは、法律で禁止されていますので、あらかじめ財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構あてに許諾をお求めください。

